

富士見の甲州街道ウォーキング

— 甲州街道 (旧道)
 - 国道20号線
 (12Km 4時間)

とちの木防風林は1800年頃植えられたというから、樹齢は200年以上になる。北風が強く作物が育たないので、高島藩に申し出て植えられた。とちの木の部落の「とち」は草冠の下に子どもの「子」を書き加え、漢和辞典には載っていない。柵の木の横に茶屋があり、二十歳くらいの子どもの女性がかいがいしく働いていたことから、十子で「とち」と呼ぶようになったと言われている。



御射山神戸は、諏訪大社の主要神事の一つの8月26日から29日にかけて行われる上社の御射山社祭に奉仕する部落である。御射山社祭になると、御射山神戸の部落では軒先に花笠を飾る。上社の**御射山社**は中央道の諏訪南インターから約1Km東方にある。松並木の参道は、御射山神戸の集落から御射山社まで約2Km続いていたが、現在はインター東からの約300mが残るだけである。**御射山社**は鬱蒼とした森の中に鎮まっている。神霊を感じさせる厳かな松の森である。競馬や流鏝馬をした跡や、会津公が見物したという跡などが残っている。芭蕉の句碑が建つ。
 雪ちるや穂屋の薄の刈残し
 穂屋とは薄で編んだ仮小屋で、御射山社祭のあいだ神官たちはここに寝泊りする。

「**瀬沢合戦**」とは1542年、諏訪頼重、小笠原長時、村上義清、木曾義昌らの信濃勢が結託して、武田晴信を相手に起こしたとされる。武田方の勝利に終わった。

ほぼ原型で残る甲州街道唯一の一里塚。樹齢400年以上のケヤキは神々しい。

御射山社にも行ってみよう

蔦木宿：江戸から42番目の宿場で、105軒の家と15軒の旅籠屋があり、500mの通りには梅と柿の並木があった。上蔦木は八ヶ岳からの湧水が多く、明治期には16箇所に水道施設を作り、戦後まで飲料水として使っていた。与謝野馨筆による与謝野晶子の歌碑が建てられている。
 白じらと並木のものとの石の樋が秋の水吐く蔦木宿かな
 本陣のこのわが友といにしえの蔦木の宿を歩む夕暮れ



原の茶屋：この辺りは人家がなく旅人は難儀した。一軒の茶屋を建て「原の茶屋」と名付けた。現在の桔梗屋である。原の茶屋は明治から大正期、アララギの歌人が夏に投宿した。アララギの足跡を後世に残すために、**富士見公園**に歌人直筆の歌碑が立てられている。



「**武川筋逸見筋合流点**」の道しるべが残っている。「へみみちにらさきまでむしゅく」と刻まれている由である。武川筋とは甲州街道で、逸見筋とは須玉、長坂、小淵沢を経る旧道である。その逸見筋には葦崎まで宿屋が無いという注意書きである。そのすぐ先に**日蓮上人の高座石**がある。日蓮上人が身延に庵を構えていた時、蔦木に教えを広めに来て、この石に腰掛けて説法をしたと伝えられる。



透関の馬頭観音像：安永9年(1780年)、三井透関(乙事生まれの甲府の商人)は、私財を投入して塚平から原の茶屋にかけて新道を整備した。馬頭観音像は**観音窪**と言われたこの地に、旅の安全を祈念して建てられた。



2020.3.30改定 ©2020 御子柴